

[004]附属図書館研究開発室の概要 : 1999~2000(第4年次)

<https://doi.org/10.15017/16786>

出版情報 : 九州大学附属図書館研究開発室年報. 1999-2000, pp.1-21, 2000-04. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :

附属図書館研究開発室の概要

1999～2000
(第4年次)

九州大学附属図書館

はじめに

附属図書館では、近年の教育研究活動の高度化、多様化、学際化、国際化等の進展に対応した高度な学術情報の提供サービスを実現するため、評議会決定により平成8年4月に研究開発室を設置し研究開発を開始した。

本年度は、第4年次目にあたりさらにその成果を上げつつある。過去の成果については、平成8年度から各年度毎にそれぞれ『附属図書館研究開発室の概要』1996～99（第1年次～第3年次）として発行し報告してきた。今年度についてもその成果を報告する。

この研究開発室の活動には、発足当初から総長をはじめ学内関係者の皆様の御理解と援助を頂いているが、特に平成11年度は、研究開発室室員5人という人数枠をはずし、もっと多様な事項を調査研究できる体制が整ったこと。さらに、学内定員教官運用により研究開発室専任の助教授1名を措置して頂いたことを深く感謝する次第である。

また、今年度についても研究開発室室員及び関係者の精力的な研究開発に対して厚く御礼申し上げるとともに、来年度もさらに成果が上がるよう努力する所存である。

平成12年 3月

九州大学附属図書館長

有 川 節 夫

目 次

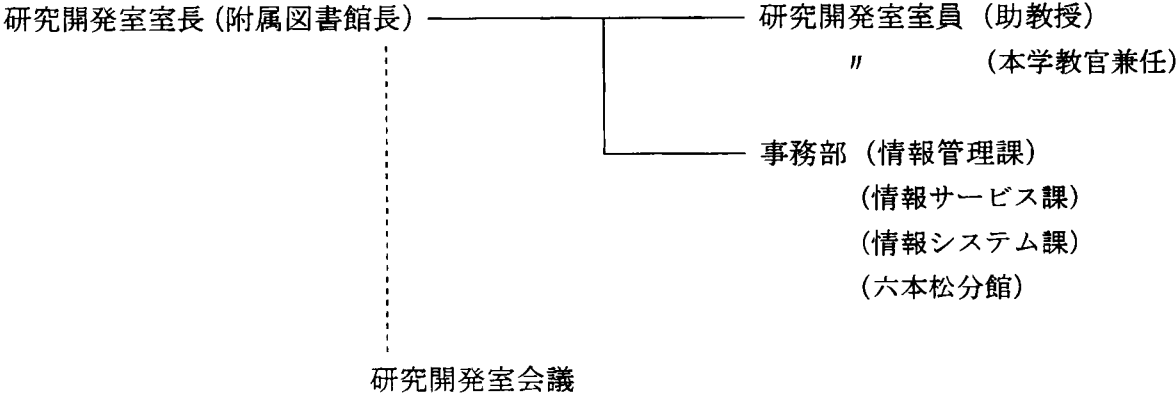
はじめに

I	設置の目的	1
II	組 織	1
III	平成11年度における研究開発	
1.	電子図書館システムの研究開発	2
	オンライン図書目録検索システムについて	
2.	貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発	4
	「源氏物語」古活字版の画像データベース作成と公開について	
3.	檜垣文庫目録（冊子体目録）の効率的な利用方法に関する調査研究	6
4.	内外大学図書館の組織、運営及びサービスに関する調査研究	8
5.	韓国との間における図書館間交流の推進に関する調査研究	11
IV	研究開発室懇談会	13
V	研究開発室会議	15
VI	平成12年度における研究開発事項	16
VII	関連規則等	18
VIII	沿革・日誌1996～2000	20

I 設置の目的

九州大学附属図書館研究開発室は、大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う教育研究支援活動の改善に関する事項のうち、附属図書館長が命ずる事項について研究開発を行い、もって高度な図書館サービス実現に寄与することを目的として設置された。

II 組 織



- 名 簿 (平成10~11年度)
- | | | |
|----|--------|------------------------|
| 室長 | 有川 節夫 | (附属図書館長、システム情報科学研究科教授) |
| 室員 | 南 俊朗 | (附属図書館研究開発室助教授) |
| | 竹田 正幸 | (システム情報科学研究科助教授) |
| | 今西 裕一郎 | (文学部教授) |
| | 柳原 正治 | (法学研究科教授) |
| | 松原 孝俊 | (言語文化学部教授) |
| | 吉田 昌彦 | (比較社会文化研究科教授) |

Ⅲ

平成11年度における研究開発

1 電子図書館システムの研究開発

【オンライン図書目録検索システムについて】

室 員 南 俊朗（研究開発室 助教授）

室 員 竹田 正幸（大学院システム情報科学研究科 助教授）

担当部署 附属図書館情報システム課電子情報掛

〈研究開発概要〉

「イメージデータによる図書目録検索システム」は、平成10年度の研究開発事項である「オンライン図書目録検索システム」を継続したものである。電子図書館化の基本は、OPACにより所蔵資料の全てが検索できることであるが、本学においては目録情報の遡及入力完了していない図書は約160万冊にのぼり、これらの資料は図書館へ出向いてカード目録を検索しなければ利用することができない。目録情報の遡及入力については、継続的に作業を進めているところであるが、現在の作業ペースではあと20年以上の期間が必要であり、図書館サービスの電子化を推進する上で大きな障害となっている。本システムはこのような状況を改善するため、目録カードをイメージデータとしてデータベース化して Web 上で提供することにより全蔵書の電子的検索を可能とするものである。

〈研究開発の内容〉

1. 図書目録検索システムの再構築（図1～3参照）

昨年度研究された図書目録カード検索システムを基に、インターフェース等に関する仕様の再検討、およびシステムの再構築を行った。また、多様な状況で本システムを稼働させることができるよう、構成情報のパラメータ化を進めている。

2. 不良データに関する対策の研究

目録カードのイメージデータの一部には、粒状や帯状のノイズを含むものがある。これらのノイズの検出、並びに、除去を行うためのアルゴリズムを開発し、その効果について、従来の手法と独自に開発した手法を比較評価するための実験を行い、従来の手法より良い結果を得た。また、本研究結果に基づき、不良カードリストを自動作成する手法に関する研究を行っている。

3. 図書目録カード検索システム管理機能の開発（図4参照）

今後の展開として、現在実現しているカード閲覧による検索から、キーワード検索へとシームレスに結合していくシステムの開発が必要である。そのため、カードに関するさまざまな属性（たとえば、著者名、タイトル、上記ノイズの状況）に関する入力・表示・修正等を

支援する管理機能が必要であるため、その開発を開始した。

4. 理学図書室、教育学部図書室所蔵分に関する検索システムの試験公開

それぞれの目録カード引き出しの実際の配列に対応した配列で引き出しを表示し、また、引き出し内の見出しの位置も、実際のカード枚数に合わせた表示を行うよう改良したシステムを開発し、10月より試験公開を行っている。

5. 図書目録カードのイメージデータの新たな入力

文学部及び九州文化史研究所の図書目録カード約50万枚を新たに入力した。準備が整い次第、順次図書目録検索システムに組み込んでいく予定である。

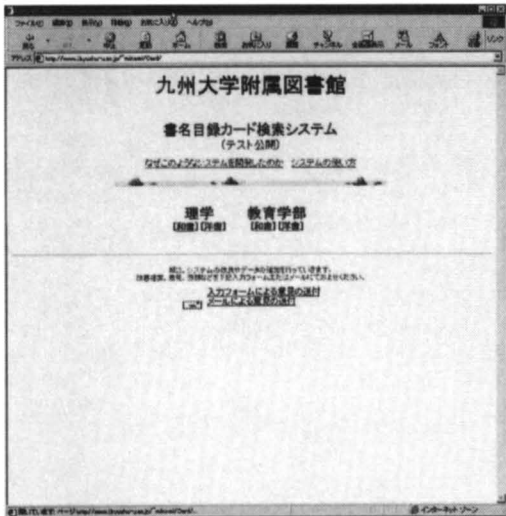


図1 システムのホームページ

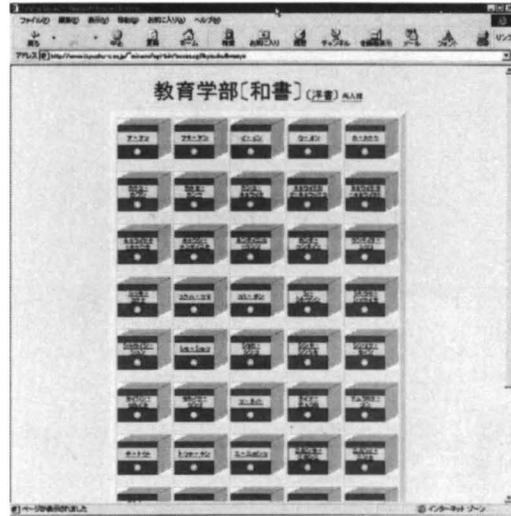


図2 引き出し一覧

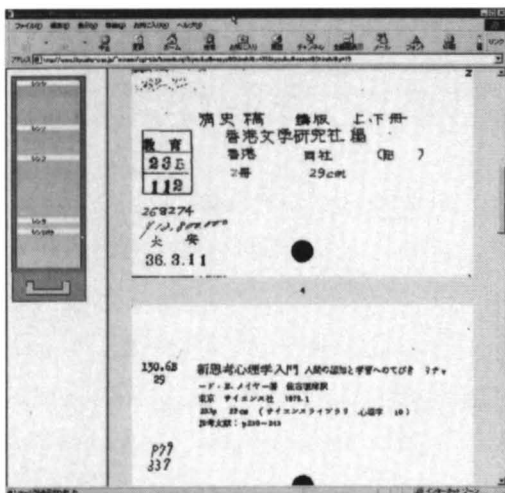


図3 引き出し内部とカードの表示

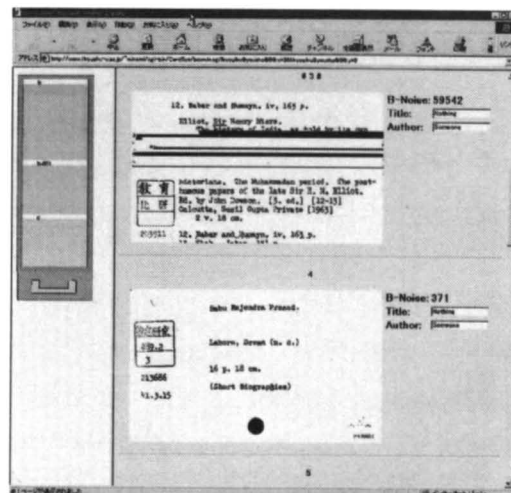


図4 管理機能画面例

2 貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発

【「源氏物語」古活字版の画像データベース作成と公開について】

室 員 今西 祐一郎（文学部 教授）

担当部署 附属図書館情報システム課図書館専門員

〈研究開発概要〉

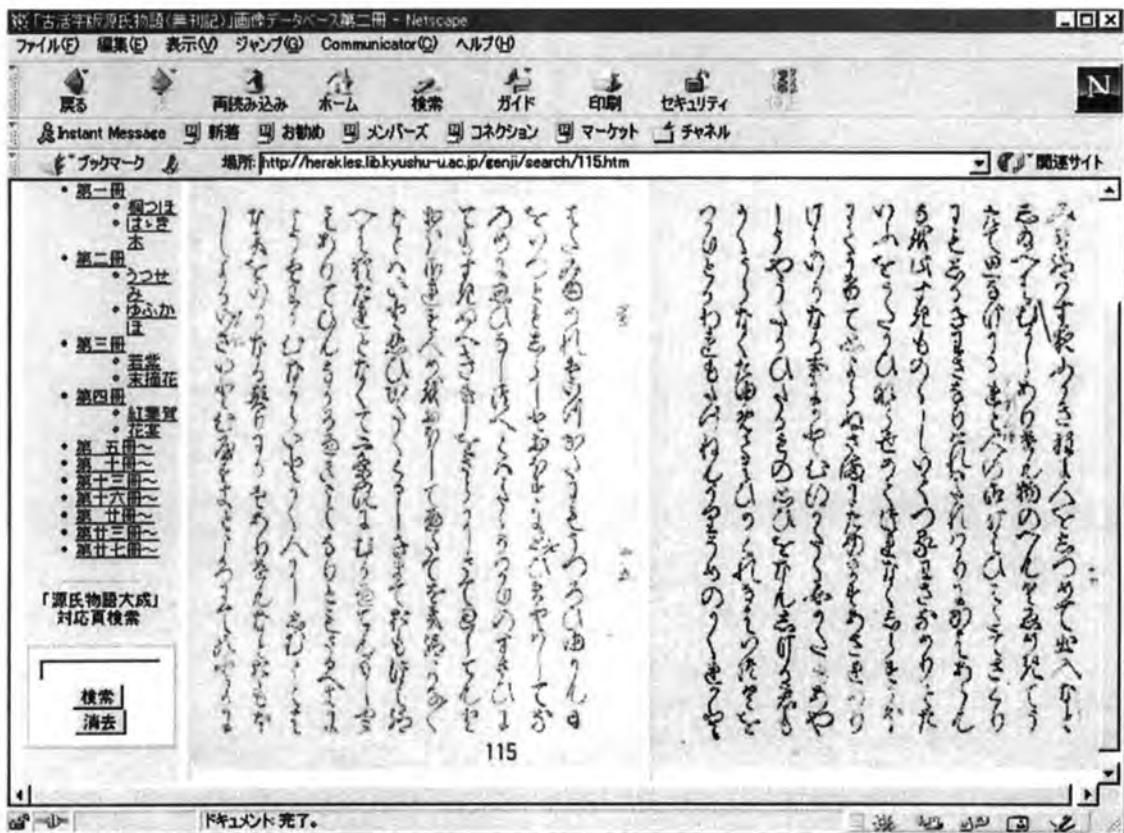
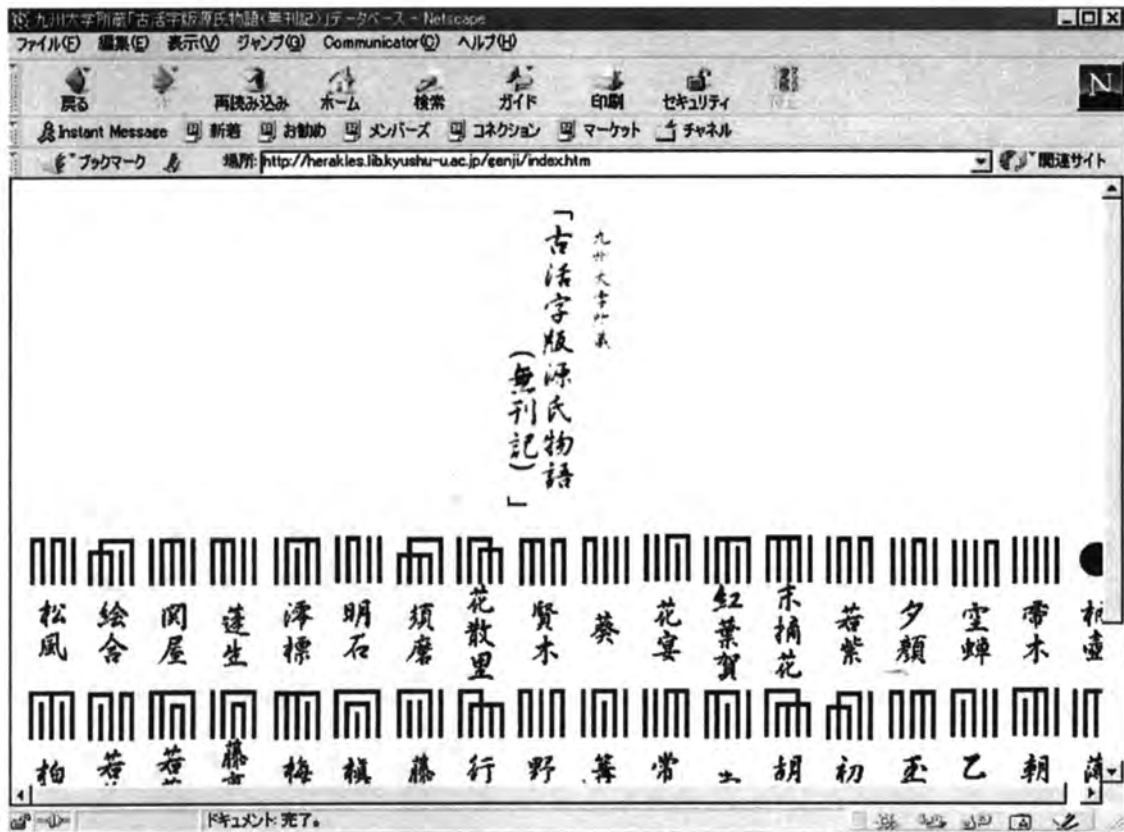
平成8年度以来継続して、本学が所蔵する貴重資料の画像データベースを作成してきたが、今年度は文学部所蔵の貴重図書『源氏物語』古活字版（無刊記）（54帖30冊）の全丁の画像化に取り組み、平成12年3月末に Web 上に公開した。今回の新しい試みとして、画像にユニークな検索インデックスを付加した。

〈研究開発の内容〉

文学部所蔵の『源氏物語』古活字版（無刊記）（54帖30冊）は藤原定家校訂の青表紙本系統の本文で、近世初頭に刊行された印刷版面の美しい典籍である。また今日までその画像の全面的公開がなされたことがない。この2つの点において、今回のデータベース化の意義は大きい。

全 1,856丁、画像総数は表紙、見返しも含めて約 3,800枚になるが、この画像データを検索する手段として、池田亀鑑編著『源氏物語大成』（中央公論社）校異編の該当のページ番号を検索キーとして画像に付加した。これにより、大部の画像データの中から目的の箇所を一瞬にして取り出すことを可能にした。この方法の採用に当たっては、『源氏物語大成』の著作権権利継承者である池田研二氏と、『大成』の出版元である中央公論新社から予め許諾を得た。

また、この蔵本中の「常夏巻」には1丁分の欠落があるが、これについては大東急記念文庫の許諾を得て、同文庫が制作した「大東急記念文庫所蔵、古写古版物語書総瞰」のマイクロフィルムより翻字して補った。



3 檜垣文庫目録（冊子体目録）の効率的な利用方法に関する調査研究

室 員 吉田 昌彦（大学院比較社会文化研究科 教授）
担当部署 附属図書館六本松分館受入掛長

〈研究開発概要〉

平成九年に国立大学図書館協議会賞を受賞した檜垣文庫目録（全5冊）をデータベース化するとともに一部史料を画像化する研究開発を行う。

〈研究開発の内容〉

(1) 現存する檜垣文庫目録データ（全5冊）をメンテナンスし、テキスト化(CSV方式)して表題、作成者、藩名、郡名、市町村名等へアクセスできる全文データベース検索を可能とした。

(2) 檜垣文庫の一部史料に解説を加え画像化し公開することとした。

作成した画像データ

① 「博多・福岡絵図」 明治20年(1887)2月、林圓策編集出版

現存する明治年間の「博多・福岡絵図」としては最も古いものである。鳥瞰図で、絵図の上部より福岡市中、博多中島（現中州）、博多市中の順で描かれている。福岡城址には陸軍営所が、中島やそれに近接して県庁や共進館、福岡倶楽部などの洋館建築群が見え、絵図下部の崇福寺では博多展覧会が催されている。

② 「堀田弥右衛門尉宛て木下（豊臣）秀吉書状」 元龜元年(1570)以前

豊臣秀吉が木下藤吉郎秀吉と名乗っていた頃、織田信長の奉行人として信長の分国尾張国津島神社家堀田一族の屋敷買得に関するトラブルに対し上使派遣を通知したもので、秀吉文書としては極めて古いものと判断される。

③ 「下問雑載」全 文政11年(1828)11月 安信 龍録述、嘉永6年鎌田某写

福岡藩世嗣黒田斉溥（後に長溥と改名）が文政11年3月、福岡藩が佐賀藩と隔年で担当していた長崎警備の視察に赴いた折り、オランダ商館にシーボルトを訪ね本草学について質問をした際の記録、画像は河童についてのやりとりの部分。

④ 「手拭い(祝 開業式 振業社)」

明治22年(1889)12月11日、九州鉄道会社により、博多～千歳川仮駐車場（久留米市）間が開通し九州で初めて鉄道営業が開始された。この手拭いはその際、宣伝のために配られたもので、博多-久留米間の時刻表とともに箱崎八幡宮、太宰府天満宮、久留米水天宮の三社詣でへの鉄道の利便性を謳っている。

⑤ 「水野越前守勝手 天保九年 天保十年 諸家内願留」

天保の改革で有名な水野忠邦の老中在職中の「諸家内願留」。

⑥ 「黒田長政米・大豆払方状」 慶弔11年(1606)

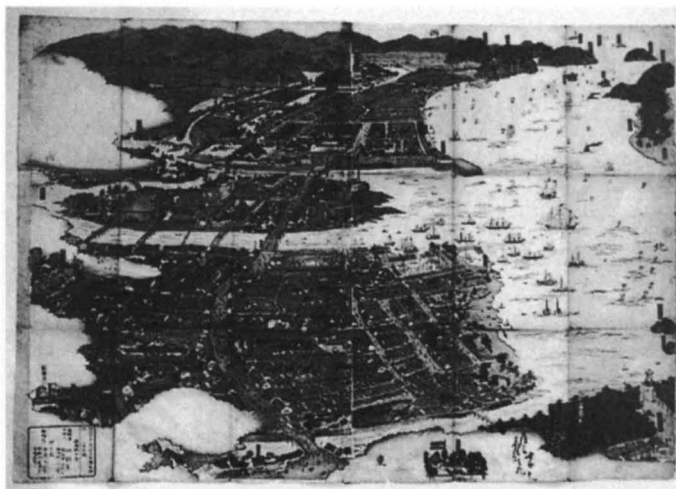
本史料は福岡藩家臣四宮家に伝わっていたもので、西郷家、玉泉館を経て本文庫に至っている。福岡藩初期の財政状況の一端を知りうるものであるとともに、黒田長政のローマ字朱印が押されている史料としても貴重である。

〈研究開発の今後の展望〉

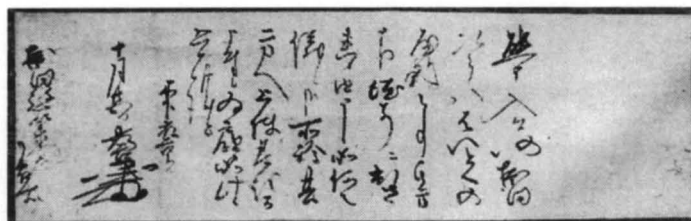
檜垣文庫冊子体目録(5分冊)のデータベース化の目的は一応達せられたが、六本松分館には、なお未整理状態の檜垣文庫史料が存在し早急な整理が必要である。また、当館には旧制福岡高等学校 玉泉大梁教授が収集した考古学資料約6,000点、古文書類約4,000点を収蔵する玉泉館資料も保管されている。これらの史料とともに全学規模での歴史史料の所在調査、カード化を行い、その成果をデータベース化すれば本学における関連学問分野での意義は計り知れない。

〈研究開発協力者〉

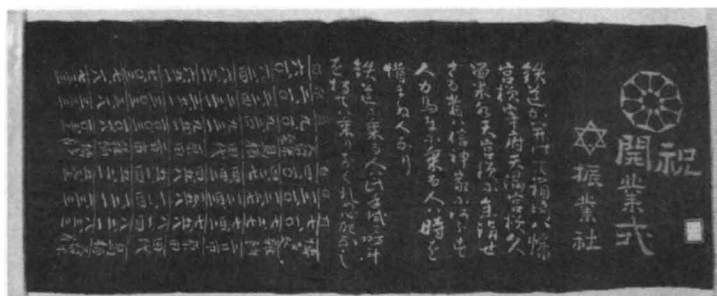
本研究開発の画像取込及び画像編集をお願いした九州大学総合研究博物館 宮崎克則助教授、膨大なデータ・メンテナンスに取り組んでくれた園田睦子氏、比較社会文化研究科大学院 石本 薫氏、日比佳代子氏に感謝するものである。



① 「博多・福岡絵図」



② 「堀田弥右衛門尉宛て木下(豊臣)秀吉書状」



④ 「手拭い(祝 開業式 振業社)」

4 内外大学図書館の組織、運営及びサービスに関する調査研究

室 員 柳原 正治（大学院法学研究科教授）
担当部署 附属図書館情報管理課課長補佐

〈研究開発概要〉

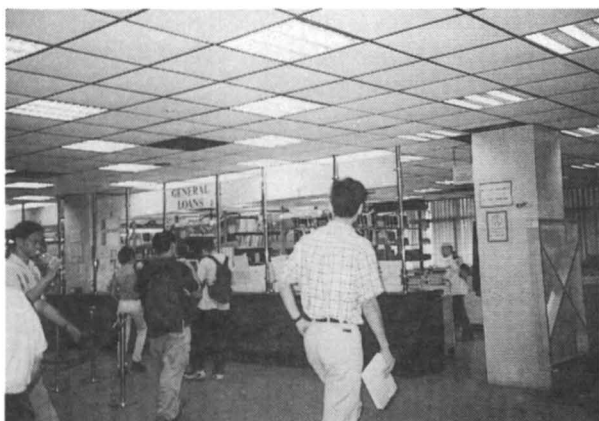
九州大学のキャンパス移転後の新図書館建設計画策定並びに図書館サービスの高度化及び図書館業務改善に向けた内外大学図書館の組織、運営及びサービスに関する情報収集と調査研究を進めている。

情報収集と調査研究は、専門家を招き研究会、講演会及び職員研修会を開催し情報を収集する、国内の大学図書館を視察し調査と情報を収集する、外国の大学図書館を視察し調査と情報を収集する等を計画した。

〈研究開発の内容〉

1 海外大学図書館等の視察

柳原正治室員（法学研究科教授）の指導の下に、海外大学視察の一環として、今年度は国立シンガポール大学（シンガポール）、チュラロンコン大学及びタマサート大学（タイ）の各図書館を視察した。この調査の概要は「海外大学図書館等視察報告－第6集－東南アジア（中央部）」として報告しているので、そちらを参照願いたい。



←国立シンガポール大学図書館



↑タマサート大学図書館



←チュラロンコン大学図書館

また、南研究開発室助教授もオーストラリアへ出張の機会を捉え、ニューサウスウェールズ大学を訪問し、電子図書館、大学情報発信のための国内連携等について調査を行った。

2 国内大学図書館等の視察

職員の研修出張を利用して、それぞれテーマを持って視察している。今年度の訪問機関及び調査事項は次のとおりである。また、各大学図書館等についての資料等も収集している。

- 北海道大学 堀之口図書情報掛長 林田データベース掛長 堤会計掛員
 - ・新システム、学生用図書等の選定
 - ・遡及入力
- 東北大学 阿部雑誌情報掛長 江藤雑誌情報掛員
 - ・外国雑誌契約
 - ・電子ジャーナルの導入
- 筑波大学 南研究開発室助教授
 - ・電子図書館、学内情報発信栗山情報管理課長補佐
 - ・図書館運営、組織の効率化
- 図書館情報大学 南研究開発室助教授
 - ・電子図書館、メタ情報データベース
- 東京大学・東京外語大学 安永相互利用掛長 穴見参考調査掛長 岩崎庶務掛員
 - ・学内デリバリー、移転状況
- 東京大学 南研究開発室助教授
 - ・電子図書館、情報基盤センター
- 東京工業大学 南研究開発室助教授
 - ・電子図書館、サブジェクトゲートウェイ活動
- メディア教育開発センター 南研究開発室助教授
 - ・マルチメディア教材の開発
- 一橋大学 山田図書館専門員
 - ・貴重資料の整理、保存、修復、「修理工房」の見学
 - ・社会科学古典資料センター見学
- 新潟大学 南研究開発室助教授
 - ・情報リテラシー教育、電子図書館活動
- 金沢工業大学 南研究開発室助教授
 - ・電子図書館を含めた新しい図書館像
- ATR 人間情報通信研究所 南研究開発室助教授
 - ・知的ヒューマンインターフェース
- 名古屋大学 益森電子情報掛長
 - ・システムリブレース
- 京都大学 南研究開発室助教授
 - ・電子図書館システム、遡及入力に関する問題点、分散協調システム技術

- 奈良先端科学技術大学院大学 南研究開発室助教授
 - ・最先端電子図書館システム, 電子ジャーナル著作権問題
- 大阪大学・大阪市立大学 田中情報サービス課長 大山庶務掛長 大村参考調査掛員
 - ・新型図書館運用
 - ・会議進行等
- 大阪大学 南研究開発室助教授
 - ・遡及入力状況, 電子図書館への取り組み
- NTT コミュニケーション科学基礎研究所 南研究開発室助教授
 - ・ネットワーク分散型のコミュニケーション技術
- 国立民俗学博物館 南研究開発室助教授
 - ・マルチメディア情報の作成および公開・展示
- 広島大学・香川大学 田中情報サービス課長 秋月閲覧掛員
 - ・キャンパス移転実績、分館設置
- 高知医科大学・愛媛大学 川野情報管理課長 川瀬情報システム課長
 - ・自動入退館、電子ジャーナル
- 琉球大学 舟越図書館専門員 古賀閲覧掛長 青木電子情報掛員
 - ・利用環境、海外衛星放送設備、音声データベース
 - ・資料の電子化

3 講演会・職員研修会の開催

- ① 講演会 平成12年3月1日 (水)
 - ・九州大学附属図書館の中・長期計画について
有川節夫 (附属図書館長)
- ② 職員研修会 平成12年1月25日 (火)
 - ・これからの大学図書館のあり方
出崎幸彦 (文部省学術国際局大学図書館係主任)
 - ・新 IR システムについて
木村 優 (学術情報センターデータベース管理係長)

5 韓国との間における図書館間交流の推進に関する調査研究

室 員 松原 孝俊（言語文化部 教授）

担当部署 附属図書館情報サービス課図書館専門員

〈研究開発概要〉

1999年3月、九州大学附属図書館は韓国ソウル大学校中央図書館との間に図書館交流協定を締結した。今後はその具体的な研究調査作業に着手しなくてはならない。

その第一歩として、平成11年度に附属図書館が所蔵する韓国関連資料を基に日本と韓国との文化交流をテーマとした講演会、貴重文物展覧を実施した。また、平成12年度からはソウル大学校中央図書館所蔵の和本および九州大学所蔵朝鮮本の貴重資料・画像史料の画像及び書誌データベース作成に当たることである。

具体的には、ソウル大学校中央図書館長から強く依頼されている同大学校所蔵和本の貴重本選定作業を当面優先させて、それを実施しながら、両大学間の電子図書館機能の実現方式を研究するために、マルチメディアデータベース、分散データベースなどを構築して、両国間の図書館をベースにした学術交流の在り方を模索したいと考える。

〈研究開発の内容〉

附属図書館では、平成11年5月11日の開学記念日行事の一環として、同月10日から16日まで貴重文物展覧を内容は「韓国を知る、日本を知る」－江戸時代から21世紀の国際交流を考える－をテーマに開催した。

また同時に「命を五年縮候」－雨森芳洲と日韓文化交流－というテーマで九州大学附属図書館公開講演会を行った。

その内容は、21世紀を目前にした今、日本と韓国とがいつまでも「近くて遠い国」であってよいかという主張の下、江戸時代の対馬藩に生き、日韓間の善隣関係樹立に奔走した儒学者・雨森芳洲の「誠信の交わり」（外交の基本は真心の交わりであり、「互いに欺かず争わず」の思想を持つべきである）をキーコンセプトとして取り上げ、グローバル社会の現代にあって、「雨森芳洲の思想と行動から何を学び」「未来に何を発信すべきか」を考えた。

[展示資料は次の四つのテーマで構成された]

1. 文禄慶長の役 －交隣関係の中断－

「文禄慶長の役（壬申・丁酉の乱）」（1592～1597）日本から派遣された約16万人の軍勢によって朝鮮半島は未曾有の混乱に陥った。その戦争の実相を、半島南部に建設された「日本式城郭」（倭城）の縄張り図や、『西征録』（戦況の概略を記述したもの）、そして『絵本朝鮮征伐記』など、あるいは戦争終了後に日本に連行された朝鮮人陶工の子孫の姿を描いた図により示した。

2. 朝鮮通信使 －交隣関係の樹立－

17世紀初め、豊臣氏が滅ぶと共に、中央集権的な統一国家権力、いわゆる幕藩体制が成立するが、対外勢力に対する関係の再編成も強力に押し進められた。これはふつう「鎖国」と呼ばれる政策で、鎖国という言葉から、長崎の出島を主な窓口としてまるでオランダとの対外

関係だけが存在し、付録のように中国関係を取り上げる見方の不十分さであった。江戸時代にあつて、長崎だけが世界への窓口「長崎口」であつたのではなく、北海道松前藩を通じた蝦夷地との関係「松前口」、薩摩藩を通じた琉球との関係「薩摩口」、対馬を通じた朝鮮との関係「対馬口」も加えた「四つの口」として、国際関係が構築されたという視点を持つことである。この世界に開かれた四つの口からは貿易品だけでなく、書物・絵画・医薬品などと共に、世界の政治・経済情報も流入し、対馬口から「朝鮮通信使」という外国人の行列が江戸との間を往来した。

通信使の日本での待遇について、現存する資料を基に解説を行った。

3. 漂流・漂着 —交隣関係の確認—

日朝間の善隣関係を維持するために朝鮮通信使が派遣されてきましたが、その一方で主に日本海岸に面した地域—玄界灘・長門・石見などに、天候不順などを理由として偶然に日本に漂着し、救助された朝鮮人もいました。近世だけでも朝鮮から日本への漂着件数は約1000件（漂着人数約1万人）に達する。

幸いにも無事救出されたケースには、その漂着民たちの絵が描かれたり（『西遊日簿』など）、あるいは彼らとの言語的コミュニケーションを取るために朝鮮語を学ぶ日本人もいました。

漂流・漂着民の救助と送還は日朝相互の善隣関係を確認する手だてでしたので、漂着した朝鮮人の救出とその後の送還は「長崎口」と「対馬口」を用いて厳格に実行されました。

4. 雨森芳洲のメッセージ —誠信之交—

本展観の主役雨森芳洲は、対馬藩は江戸では10万石格の大名として立ち振る舞っているものの、実質2万石の財政赤字のなかにあつて、芳洲は200石で召し抱えられました。22歳の若き儒学者には、破格の待遇です。

当時の対馬藩内には、時代の流れを見通す人は多くありませんでした。『交隣提醒』で強調するように、芳洲の周りには、「乱後之余威」（文禄慶長の役以後でも、軍事パワー本位の枠組みで日朝関係の変化をとらえる見方）の認識を持つ人が大勢いました。一言でいえば、「力の外交」論者が大半を占めていたのです。儒学者でありながらも、朝鮮との外交交渉の現場に数多く立ち会った芳洲ですから、本来の日朝関係は対立や争いがノーマルであるなどと考えるはずはありません。彼の脳裏には対立や抗争よりも、平和や協調を基軸とした国際秩序観がいつも思い描かれていたのではないのでしょうか。「誠信之交」は、彼の卓越した国際秩序認識によって生み出された名言です。

【特別展示】

『広開土王碑拓本第1面』（レプリカ）

広開土王は好太王とも美称される高句麗の第19代の王（在位391～412年）。

子の長寿王は広く版土を拡張した父の治績を讃えて広開土王という諡（おくりな）をささげ、414年に治績の記念碑を国都を見おろす鴨緑江畔（中国吉林省集安県）の丘に建てた。その高さは6.34m、幅は1.5～2m。四面におよそ1775字、第一面には開国神話に始まり、王が新羅と百済に進出した倭を撃退する戦いの前半が優麗な書体で陰刻されている。

IV

研究開発室懇談会

平成8年度第1回

- 日時 平成9年1月9日(木) 11:00~13:00 館長室
- 出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原、中野(室員)
- 議事
- 1 予算について
 - 2 研究開発状況について
 - 3 平成9年度の研究開発事項について
 - 4 その他

平成9年度第1回

- 日時 平成9年9月4日(月) 10:30~12:00 館長室
- 出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原、中野(室員)
- 議事
- 1 予算について
 - 2 海外大学図書館の視察計画について
 - 3 研究開発状況について
 - 4 その他

平成9年度第2回

- 日時 平成9年12月22日(月) 11:00~13:00 館長室
- 出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原、中野(室員)
- 議事
- 1 国文学関係資料画像データベースの公開について
「大和物語」、「伊勢物語」、「建礼門院右京大夫集」
 - 2 海外大学図書館の視察について(報告)
 - 3 その他

平成9年度第3回

- 日時 平成10年3月24日(火) 11:00~13:00 館長室
- 出席者 小山(研究開発室長)、竹田、柳原(室員)
- 議事
- 1 17~18世紀国際法・国制史コレクションデータベースの公開について
 - 2 国文学関係「扶桑名勝図」の画像データベースの公開について
 - 3 平成10年度研究開発事項について
 - 4 その他

平成10年度第1回

- 日 時 平成10年7月6日(月) 13:30~15:30 館長室
出席者 有川(研究開発室長)、竹田、中野、今西、柳原(室員)
議 事 1 平成10年度研究開発計画について
2 奨学寄付金の受入について
3 その他

平成10年度第2回

- 日 時 平成10年10月28日(水) 10:00~11:30 館長室
出席者 有川(研究開発室長)、竹田、中野(室員)
議 事 1 予算について
2 研究開発及び調査研究の動向について
3 研究開発室研究会の開催について
4 その他

平成10年度第3回

- 日 時 平成11年2月22日(月) 15:30~17:00 会議室(新館4階)
出席者 有川(研究開発室長)、竹田、中野、今西、柳原(室員)
議 事 1 ソウル大学校中央図書館との交流協定について
2 平成10年度研究開発の進捗状況について
3 その他



研究開発室会議

※「研究開発室懇談会」を「研究開発室会議」と平成11年度より名称変更

平成11年度第1回

- 日時 平成11年4月12日（月） 13:30～ 館長室
出席者 有川（研究開発室長）、竹田、今西、柳原、松原、吉田（室員）
議事
- 1 会議名称の変更について
 - 2 平成11年度研究開発事項について
 - 3 選考委員会について
 - 4 その他

平成11年度第2回

- 日時 平成11年5月17日（月） 10:00～ 館長室
出席者 有川（研究開発室長）、竹田、今西、柳原、松原（室員）
議事
- 1 附属図書館研究開発室助教授候補者の選考について
 - 2 その他

平成11年度第3回

- 日時 平成12年3月22日（水） 15:00～ 館長室
出席者 有川（研究開発室長）、南、竹田、今西、吉田（室員）
議事
- 1 平成11年度研究開発の進捗状況について
 - 2 平成12年度研究開発事項（案）について
 - 3 その他

VI

平成12年度における研究開発事項

1/2

1	事項	九州大学附属図書館における電子図書館システムの研究開発
	概要	九州大学附属図書館における電子図書館化推進のための基礎及び実用化研究を行う。特に、図書目録カードのイメージデータを用いた書誌情報検索支援システムに関し、利用者と管理者の双方に対する総合的な支援を行うシステムの実現に重点をおき研究開発を進める。 さらに、電子図書館機能の実現方式を研究するとともに、マルチメディアデータベース、分散データベース、全文検索および自然言語処理等の各種要素技術の研究開発を行う。
	室員	南 俊朗 (研究開発室助教授) 竹田正幸 (システム情報科学研究院助教授)
	期間	平成12年4月1日～平成13年3月31日
	担当窓口	情報システム課電子情報掛長
2	事項	九州大学附属図書館所蔵の貴重資料の画像及び書誌データベース作成に関する研究開発
	概要	九州大学附属図書館で所蔵する貴重資料の画像及び書誌データベース作成に当たっての対象資料の選定、入力方式、表示方式、検索法等に関する研究開発を行う。
	室員	今西祐一郎 (人文科学研究院教授)
	期間	平成12年4月1日～平成13年3月31日
	担当窓口	情報システム課図書館専門員
3	事項	内外大学図書館の組織、運営及びサービスに関する調査研究
	概要	九州大学のキャンパス移転後の新図書館建設計画策定並びに図書館サービスの高度化及び図書館業務改善に向け内外大学図書館の組織、運営及びサービスに関する情報収集と調査研究を行う。
	室員	柳原正治 (法学研究院教授)
	期間	平成12年4月1日～平成13年3月31日
	担当窓口	情報管理課課長補佐
4	事項	韓国との間における図書館間交流の推進に関する調査研究
	概要	九州大学附属図書館はソウル大学校中央図書館との間に図書館交流協定を締結した。また、平成11年度に附属図書館が所蔵する韓国関連資料を基に日本と韓国との文化交流をテーマとした講演会、貴重文物展覧を実施した。さらに、Korea Foundation の助成を得て図書館間学術交流に関する基礎的研究を認められている。そこで、これらに関する具体的な計画立案と実施に関する調査研究を行う。
	室員	松原孝俊 (言語文化研究院教授)
	期間	平成12年4月1日～平成13年3月31日
	担当窓口	情報管理課課長補佐及び情報サービス課図書館専門員

5	事 項	九州大学附属図書館所蔵の古書・文書データベース構築に関する調査研究
	概 要	古書・文書整理検討委員会から出された報告書（平成9年2月）に盛り込まれた検討の後を受け、九州大学附属図書館及び各部局毎に分散所蔵している古文書類の一元化された目録データベースを作成、電子化するための方策等について具体化するための調査研究を行う。
	室 員	吉田昌彦（比較社会文化研究院教授）
	期 間	平成12年4月1日～平成13年3月31日
	担当窓口	六本松分館受入掛長
6	事 項	医学分館所蔵貴重古医書のデータベース化及び医史学的、書誌学的な調査研究
	概 要	工学部旧保存書庫収蔵の医学部蔵書中には、先達の収集になる多数の16-19世紀の貴重書が含まれている。平成11年度は総長裁量経費により再調査、整理作業を行った。これの遡及目録、データベース化による公開を促進し、併せてコレクションとしての医史学的及び書誌学的な資料価値等に関する調査研究を行う。
	室 員	ヴォルフガング・ミヒエル（言語文化研究院教授）
	期 間	平成12年4月1日～平成13年3月31日
	担当窓口	医学分館図書館専門員

VII

関連規則等

九州大学附属図書館研究開発室の設置について

(平成 8年2月20日評議会決定)

(平成11年5月21日評議会改正)

一 設 置

九州大学附属図書館に研究開発室を置く。

二 目 的

研究開発室は、大学における学術情報の収集、加工、蓄積、提供及びその他図書館が行う教育研究支援活動の改善に関する事項のうち、附属図書館長が命ずる事項について研究開発を行い、もって高度な図書館サービスの実現に寄与することを目的とする。

三 室 長

- 1 研究開発室に室長を置き、附属図書館長をもって充てる。
- 2 室長は、研究開発室の業務を総括する。

四 室 員

- 1 研究開発室に室員を置く。
- 2 室員は、命ぜられた課題について研究開発を行う。
- 3 室員は、本学の教官のうちから、附属図書館長の推薦に基づき、総長が任命する。
- 4 室員の任期は一年とし、再任を妨げない。

五 事 務

研究開発室の事務は、附属図書館情報管理課において処理する。

六 その他

この決定に定めるもののほか、研究開発室の運営に関し必要な事項は、室長が定める。

七 実 施

- 1 この決定は、平成8年4月1日から実施する。
- 2 研究開発室は、平成8年4月1日から平成13年3月31日までの間存続するものとする。ただし、同室の業務の成果の評価を踏まえて見直しの上、平成13年4月1日以降も存続する必要があるときは、適切な時限を設けて、評議会の了承を得るものとする。

九州大学附属図書館研究開発室要項

(平成8年3月19日附属図書館商議委員会承認)

(趣 旨)

- 1 この要項は、「九州大学附属図書館研究開発室の設置について」(平成8年2月20日評議会決定)に定めるもののほか、九州大学附属図書館研究開発室(以下「研究開発室」という。)の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(研究開発)

- 2 附属図書館長は、研究開発事項及び期間を定め、研究開発事項に適した者を室員として選抜するものとする。

(総長への室員の推薦)

- 3 附属図書館長は、総長に室員を推薦するにあたり、室員が所属する部局等の長の承諾を得るものとする。

(研究開発成果等の報告)

- 4 研究開発室長は、研究開発の成果及び進捗状況を適宜商議委員会等に報告するものとする。

(運営経費)

- 5 研究開発室の運営に関する経費は、附属図書館の予算上可能な範囲で支弁するものとする。

(その他)

- 6 この要項に定めるもののほか、研究開発室の運営については、研究開発室長の定めるところによる。

(実 施)

- 7 この要項は、平成8年4月1日から実施する。

- 平成8年2月20日 評議会において「九州大学附属図書館研究開発室の設置について」決定
- 3月19日 附属図書館商議委員会において「九州大学附属図書館研究開発室要項」承認
- 4月1日 研究開発室設置
- 6月1日 研究開発室員総長発令（竹田正幸 大学院システム情報科学研究科助教授、柳原正治 法学部教授、中野三敏 文学部教授）
- 11月19日 九州大学の新図書館情報システムの披露式展及びデモンストレーションを開催（研究開発の成果を披露、OPAC 横断検索システム、CD-ROM サーバシステム、画像検索システム、全文検索システムなど）
於：九州大学中央図書館視聴覚ホール
- 11月29日 竹田正幸室員による講演『電子図書館を超えて』（平成8年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会福岡地区第2回研究会）
於：九州大学中央図書館会議室
- 平成9年1月9日 研究開発室懇談会（第1回）開催 於：館長室
- 3月18日 研究開発室員を講師として図書館職員研修会を開催
竹田正幸室員『情報検索と図書館』
柳原正治室員『欧米及び日本の「外交史料館」について』
中野三敏室員『坂本書誌学の諸問題』
- 4月1日 平成9年度研究開発事項として前年度研究開発事項及び研究室員を継続
ESAKIA 全文データベースを WWW サーバーにより公開
- 5月 附属図書館研究開発室の概要 1996-97発行
- 9月4日 研究開発室懇談会（平成9年度第1回）於：館長室
- 11月15日 米国大学図書館視察（柳原研究開発室員、末次情報管理課課長補佐。シカゴ大学図書館、アメリカ図書館協会本部など視察。大規模大学図書館の組織・運営・サービス、電子図書館化、研究開発機能等の実態調査のため。11月22日まで）
- 12月1日 国文学関係貴重資料「大和物語」「伊勢物語」「建礼門院右京大夫集」画像データベースを WWW サーバーにより公開
- 12月22日 研究開発室懇談会（平成9年度第2回）於：館長室
- 平成10年2月1日 「17～18世紀国際法史・国制史コレクション」データベースを WWW サ

ーバーにより公開

- 3月24日 研究開発室懇談会（平成9年度第3回）於：館長室
- 4月1日 研究開発室総長発令（竹田正幸 大学院システム情報科学研究科助教授、柳原正治 法学部教授、中野三敏 文学部教授、今西裕一郎 文学部教授）
- 4月1日 国文学関係貴重資料「扶桑名勝図」画像データベースを WWW サーバーにより公開
- 7月6日 研究開発室懇談会（平成10年度第1回）於：館長室
- 10月28日 研究開発室懇談会（平成10年度第2回）於：館長室
- 11月9日 秦ソウル大学校中央図書館長による講演『情報化時代における韓日文化交流と大学図書館の役割』於：視聴覚ホール
- 11月9日 研究開発室研究会 於：中央図書館会議室
ソウル大学校中央図書館と九州大学附属図書館における電子化の状況についての報告と意見交換
- 平成11年 2月22日 研究開発室懇談会（平成10年度第3回）於：館長室
- 3月26日 ソウル大学校図書館との図書館間交流協定締結 於：ソウル大学校
- 4月1日 研究開発室総長発令（竹田正幸 大学院システム情報科学研究科助教授、柳原正治 大学院法学研究科教授、今西裕一郎 文学部教授、松原孝俊 言語文化学部教授、吉田昌彦 大学院比較社会文化研究科教授、）
- 4月12日 研究開発室会議（平成11年度第1回）於：館長室
- 5月17日 研究開発室会議（平成11年度第2回）於：館長室
- 7月1日 研究開発室南俊朗助教授発令（教官定員運用による、大型計算機センター）
- 10月31日 東南アジア大学視察（柳原研究開発室室員、栗山情報管理課課長補佐、益森電子情報掛長。国立シンガポール大学、チュラロンコン大学及びタマサート大学図書館など視察。東南アジアにおける電子図書館化の現状、英語以外言語使用国における電子図書館化及び組織・運営・サービス・予算等の実態調査のため。11月5日まで）
- 平成12年 3月22日 研究開発室会議（平成11年度第3回）於：館長室
- 3月24日 館長、今西室員、事務部長ソウル大学校中央図書館訪問
- 3月31日 国文学関係貴重資料「源氏物語」画像データベースを WWW サーバーにより公開

附属図書館研究開発室の概要 1999-2000 (第4年次)

2000年4月発行

九州大学附属図書館

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

電話 092(642)2324